

部会報告

〈高校部会〉

☆一九九五年五月二三日（火）

於 部落解放研究教育センター
大阪府学校教育審議会答申について
報告者 成山治彦（大阪府教育委員会事務局高校教育課指導主事）

大阪府教育委員会高校教育課成山治彦さんより、「新しい時代に対応する府立高等学校教育の改革並びに高等学校入学者選抜方法の在り方について」の大阪府学校教育審議会の答申について報告をうけた。高校教育改革の具体的なプランがどうとされている今、参加者も予想以上に多く、活気あふれる部会であった。報告の概要（大阪府教育委員会発行リーフレット「輝く個性を伸ばす教育をめざして」より）は以下の通りである。

1、はじめに

現在、学校教育に求められているものが、生徒の多様化に対応した教育であり、基礎・基本にうらうちされ且つ生徒一人ひとりの個性を最大限に伸ばさせることである。

また、業者テストの廃止や、偏差値による進路指導の改善のために、中学生が適切に学校選択ができるような高校の特色づくりを進める必要がある。学校規模の縮小の時期を、学校教育の質的充実をはかる絶好の機会ととらえる。

2、改革のポイント
キャッチフレーズは「個性と人間性にあふれた高校生を育てます」で、次の四点が改革のポイントであり同和教育ともリンクできるものと考えている。

◇偏差値偏重の教育と受験競争の過熱を是正し、個性尊重・人間性重視の教育。
◇基礎・基本を重視するとともに、個性を伸ばし、創造力・思考力・表現力を育成する教育。

◇自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成。

◇生徒の興味・関心、進路、適性などに応じた教育。

(1)総合学科の設置について

高校改革の中心的な役割を担うと位置づけている。総合学科については以下の通りである。

〈総合学科とは〉
◇普通教育と職業教育を総合した新たな学科。

◇自己の生き方と進路についての自覚を育てる。

◇主体的に学習計画を立てることができる。

◇系列を越えた幅広い科目選択が可能。

◇単位制に基づいて運営される。

◇履修科目について

・必修科目―基礎・基本を学ぶ。

・原則履修科目―進路への自覚。

・系列・総合選択科目―個性を伸ばす。

・自由選択科目―興味・関心や進路

大阪にふさわしい
に対応。

総合学科の理念と系列

高齡化↓福祉都市

福祉サービス系列

国際化↓世界都市

国際協力系列

水都↓環境都市

環境科学系列

情報化↓情報発信都市

情報系列

生産流通系列

ライフ・サイエンス(生命科学)系列

マリナーナ系列・地域開発系列

芸術系列・人間関係系列

具体的な総合学科のイメージ

国際協力系列を主に、ライフ・サイエンス系列等を置く総合学科

国際交流を進めるとともに、自然・科学・健康について学ぶ。

情報系列を主に、生産流通系列等を

置く総合学科

情報やバイオテクノロジー等のハ
イテク技術や流通関係の学習を充
実。

福祉サービス系列を主に、地域開発
系列等を置く総合学科

福祉・人権・文化を軸に地域との
連携を深めた学習を重視。

環境科学系列を主に、マリナーナ系列
等を置く総合学科

よりよい環境の創造を目指して、
環境関係や海洋関係等について学
ぶ。

(2) 単位制高等学校、定時制の改革、学
校間連携等

単位制高等学校

学習者の希望、学習歴、生活環境等
に応じて教育を受けることができ
る。

修得した単位の累積加算により卒業
認定が行われる。

全日制単位制高等学校の設置を検討
することが必要である。

定時制の課程の改革

職業能力の開発・伸長。

単位制で幅広く選択できる総合的な
学校。

学校間連携や聴講制度の活用。

通信制の課程との併修制度の拡充。

普通科等の特色づくり

学区ごとのバランスよいコースの配
置。

専門学科に準じる程度のコースの設
置。

工業科等の専門学科における多様な
選択科目の開設。

学校間連携

選択学習の機会が拡大。

学校間の相互理解が進展。

開かれた学校づくりが進展。

技能審査の成果の単位認定

学習意欲や主体的、創造的な学習態
度が育つ。

特に定時制の課程における積極的な
活用。

3、入学者選抜方法の改善

(1) 評定の区分と調査書の記載事項

ア 5段階評定への変更の検討

に対応。

総合学科の理念と系列

高齡化↓福祉都市

福祉サービス系列

国際化↓世界都市

国際協力系列

水都↓環境都市

環境科学系列

情報化↓情報発信都市

情報系列

生産流通系列

ライフ・サイエンス(生命科学)系列

マリナーナ系列・地域開発系列

芸術系列・人間関係系列

具体的な総合学科のイメージ

国際協力系列を主に、ライフ・サイエンス系列等を置く総合学科

国際交流を進めるとともに、自然・科学・健康について学ぶ。

情報系列を主に、生産流通系列等を

置く総合学科

情報やバイオテクノロジー等のハ
イテク技術や流通関係の学習を充
実。

福祉サービス系列を主に、地域開発
系列等を置く総合学科

福祉・人権・文化を軸に地域との
連携を深めた学習を重視。

環境科学系列を主に、マリナーナ系列
等を置く総合学科

よりよい環境の創造を目指して、
環境関係や海洋関係等について学
ぶ。

(2) 単位制高等学校、定時制の改革、学
校間連携等

単位制高等学校

学習者の希望、学習歴、生活環境等
に応じて教育を受けることができ
る。

修得した単位の累積加算により卒業
認定が行われる。

全日制単位制高等学校の設置を検討
することが必要である。

定時制の課程の改革

区分される点数の幅が広がる。
生徒の個性や学科の特色を生かし、
学校の裁量の幅を広げた合否判定が
できる。

総合所見欄の活用

観点別学習状況やボランティア活動
などが文章表現で詳述できる。

(2) 調査書と学力検査の比重

ア 一般選抜

各高等学校の個性化に合わせた、調
査書と学力検査の比重の弾力化の検
討。

イ 専門一次

学科の特色による多様化の検討。
(3) 受験機会の複数化

ア 専門一次

受験生徒の心理的影響等を考慮し
た、募集人員の在り方についての検
討。

イ 総合学科

専門一次と同じ時期に全員募集し、
通学区域を府内全域とすることの検
討。

ウ 普通科

専門学科に準じる程度に専門教科・
科目を設ける場合の、受験機会の複
数化の検討。

(4) 定時制の課程の選抜

社会人の入学に配慮し、学力検査を
一部作文に代えるなどの多様化の検
討。(文責事務局)

地域・子ども会部会

☆一九九五年六月二〇日(火)

於 部落解放研究教育センター
地球市民としての生き方を考える

インドシナの現状から——
報告者 八木沢克昌(曹洞宗国際ボ
ランティア会)

地球市民としての生き方を考える——
インドシナの現状から——と題し
て、曹洞宗国際ボランティア会(SV
A)東京事務所事務局長代行の八木沢
克昌さんに報告していただいた。

インドシナの子どもの状況
カンボジア(人口約九五〇万人)で
は現在なお内戦が続いている。またこ

の国は、世界で地雷が最も多い国の一
つで、国連の推計ではまだ約一千万個
も埋まっているという。これを全部取
り除くには、一〇〇年以上かかるそう
だ。いまでも月に平均二二〇人の人が
地雷により負傷し、また同じ数の人が
死亡しており、その半分が子どもであ
る。ラオス(人口約四五〇万人)でも
ベトナム戦争当時に、多くの爆弾がお
とされ、今でも子どもたちが不発弾な
どの戦争後遺症に苦しんでいる。

タイ、カンボジア国境や、タイ、ピ
ルマの国境でも内戦が続いている。ア
ジアで内戦状態がない国はほとんどな
い。日本に「戦争を知らない子どもた
ち」という歌があるが、インドシナの
子どもはまさしく「戦争しか知らない
子どもたち」という状況にある。

そうしたなかインドシナでは栄養失
調や、栄養不良でもまだ多くの子ども
が亡くなっている。乳幼児の死亡率を
日本と比較すると、日本では一〇〇人
あたり〇・四人、タイでは四人、ラオ
スでは一人、カンボジアでは一三人

の割合である。
教育について

タイは、現在義務教育は六年間で、中学に進学できるのが四〇%、高校に進学できるのが二〇〜二五%である。ところがカンボジアでは、小学校にいける子どもが、国全体で七〇%である。そのうち卒業まで学ぶことができる生徒は三〇%である。

ラオスについてもだいたい同じ状況だが、一年から二年になるときに、生徒は五〇%に減少する。これらの理由は、食べるために子どもも働かねばならないこと、一家に子どもが七、八人いることなどである。

タイであつても教科書や本を、1人に1冊というようには持つことができないところもあり、またスラムでは教科書が買えない。しかしそういった中でも子どもたちは、とにかく勉強したい、学校に行きたいという気持ちで必死にもっている。

こうしてみると、日本の子どもとアジアの子どもが抱えている問題は正反

対である。アジアの子どもは、学校に行きたいのに行けず、食べたいのに食べられない。ところが、日本の子どもは、学校に行きたくないのに無理やり行かされ、勉強したくないのに無理やりやらされている状況がある。

日本とアジアの問題

今から二、三年前タイ米が日本に輸入された。この時タイでは、一番貧しい東北部やスラムで、一時的に、高い時で米の値段が三〇〜四〇%もあがったそうだ。このことにより今まで三食食べていたのを二食にしたり、おかずを減らさざるをえなかったという。

またペットフードの問題もある。ペットフードは日本とアジアを考えると、ペットフードの九〇%はタイでつくられている。原材料は、フィリピンとインドネシア近海でとれるアジ、マグロ、エビなどだ。本来これらは、アジアの子どもが食べる貴重なタンパク源である。しかしこのように日本への輸出に使われるため、アジアの子どもは栄養

がとれない。

実際に工場を取材した共同通信の方がある。その人の取材によると、ペットフードをつくっているのはタイの小学校を卒業してバンコクに出稼ぎにきている人たちであった。しかしその工場では、日本での報道の影響を考え、取材は拒否していた。そこで工場の近くの屋台にいた一五、六歳の女の子に通信社の方が、「皆さんは、ここでつくっているこの缶詰がどこで誰が食べているか知っていますか」と聞いた。すると「知ってますよ。そのこととあなたとわたしがどのように関係があるのですか。あなたは新聞記者だから、これを書いたらさぞかし正義感に燃えていいかもしれません。しかし、それを書いたことによつて、工場が閉鎖され、私たちの仕事が無くなったらどうやって責任を取ってくれるのですか」と話されたそうだ。

単に薄っぺらな道徳感だけで、日本人がペットフードを買うのを悪いこととし、買うのをやめたときに起こる問

題もある。しかしこれを続けることが正しいとはいいかねる。これは、あらゆる資源についていえる問題である。経済力の差が暴力的に働き、弱い立場の国の人びとの命や、生活を犠牲にしているという現状を知る必要がある。

阪神大震災とアジアの心

地震の直後、スラムの子どもたちと先生が中心になつて、地震の被災者の方たちに対して募金活動をはじめた。自分たちが、やっと食べている中で子どもたちは、一円、五円、一〇円を集めた。大人たちも神戸の人たちは住む家もなくなっているから、助けねばならないと募金をした。そうして集まったお金(日本円で四五〇万円)を代表のプラティープ先生が実際に手渡しにした。

タイでは大人が日雇いの仕事をして一日働いて約五〇〇円である。子どもも一年間で、一万円あると学校にいける。そういう中で募金をしてくれたのである。理由を聞くと、「困ったときに助け合い、励まし合うのが同じアジア

人であり、人間でないのか」といわれたそうだ。タイだけでなく、世界でも貧しいといわれるラオス(日本のGNPの一〇〇分の一以下)でも、給料を前借りまでして募金してくれた人がいた。また子どもは、お金をだすことができないというので、はげましの手紙や絵を送ってくれた。

このようにアジアのほとんどの国の政府、民間から援助を受けた。募金をされたり、なんらかのかたちで行動されたというとき、われわれはいつたいアジアのことをどれだけ知っているのか、どれだけ真剣に考えてきたのかということを反省させられる。われわれが想像している以上に、同じアジア人としての意識や同じ人間としての共通の意識が、アジアの中でも広がっていることを改めて深く感じさせられた。

アジアから学ぶ

タイでは、子どもを育てるときに①自分のことが自分でできるのに、自分の力を使わず、自分のことに責任をもたない子どもを最低の子ども②自分の

ことが自分で最低できる子どもを、普通の子ども③自分のことや自分の家族に対して、責任がもてるのが普通の良い子④自分のことと自分の家族に対して責任がもて、なおかつ地域、社会の人といっしょに助け合い、共に生きることのできる子どもが、人間の子どもと位置づけ教養している。二一世紀を同じアジア人として生きていく時の日本人のありかたをあげるならば、タイで教えられている人間の子どものとしての生き方に加えて、国境を越え異なる文化、民族の人たちと共に生きることでできる人間を目指さねばならない。ところが、日本は「すいません」の文化である。人に悪いことをしてはいけな、迷惑をかけてはいけなという禁止を教え、「いいことをしなさい」という促進をあまり教えていない。したがっていわねければやらない子どもが多い。そして、もし人の足を踏んでいても、人を傷つけていても、他の人がいたいというまでわからないという価値観になつていく。

値観になっている。

日本人は何のために勉強し、生きていくのかを考えないとアジアから相手にされなくなるだろう。

アジアの子どものほうがはるかに元気で、いきいきしている。日本の学校にいくと子どもの顔がまるで死んでいるかのような。大人も世界でこれくら

い疲れ果てた人間はいないのでとは感じさせる表情をしている人が多い。どのような生き方が必要かを考え、子どもにとって生きがいがある、元気がでるような希望を、大人がかかっているかねばならない。そういう意味でも子どもが元気な国、アジアに学ぶことは多い。

生きるのに精一杯のアジアの子どもたちに対しては支援や援助をし、精神的なところに関してはアジアの人たちから学ぶ。そして、人間性を取り戻し、回復していく運動を国境を越えて共に行っていくべきである。

(文責 事務局)



映画型学習とリーダー養成

話しあい学びあいの部落問題学習

武本 勝著

人権ブックレット 43

● A5判 ● 102頁

● 定価600円+税18円

講演会形式だけでは人の意識や行動は変りにくい。本書では部落問題を学ぶ現場で試行錯誤した著者が、参加し企画するこれからの学習会を創っていくために平易に手ほどきする。